

## 第2部 論点

### 目指す姿と基本方針の論点

#### 総括論点

東京五輪をはじめ、グローバル時代の到来等による社会情勢の変化の中で、住む人も訪れる人にも喜ばれる花・緑豊かな静岡県の実現に向け、社会総がかりで取り組む緑化推進のあるべき姿について議論をいただきます。

#### 論点1 花と緑を慈しむ文化の創造

- ・地域の個性に合わせた緑化推進と、子どもから大人まで幅広い世代が花や緑を育て、触れ合い、集う機会の創出
- ・学び、遊び、スポーツを天然芝の上で楽しんで行える環境づくり

#### 論点2 花と緑による地域景観の質向上

- ・住む人が誇りと愛着を持つ地域景観の形成に向けて、花と緑のある暮らしの街並みづくりの目指す方向
- ・国内外の来訪者を花と緑で温かく迎え、本県を印象付けるおもてなし空間

#### 論点3 社会総がかりの緑化活動

- ・県民、事業者、行政が、緑化の知識を持ち、緑化の効果や重要性を認識しながら、主体的かつ連携して取り組めるしくみづくり
- ・新たな素材や技術を取り入れた省力で見栄えの良い緑化推進

いただいた意見を計画の方針、方策の策定に反映させていただきます。

# 論点1

## 花と緑を慈しむ文化の創造（緑と触れ合う）

- 高齢化により緑化ボランティアが減少
- 活動を担う人の裾野を広げたい

### ○幅広い世代への普及

- ・園児を対象とした花育教室の開催（H27～）  
（主催：グリーンバンク）

年度	27	28	29(予定)
実施園数	17	89	108
参加人数	421	3,027	3,674

- ・ふじのくに花の都しずおか・花緑コンクール（H26～）  
（主催：ふじのくに花の都しずおか推進協議会（事務局：県農芸振興課））

#### <部門>花が自慢の職場部門

企業・オフィスの部／飲食店・宿泊施設の部／病院・福祉施設の部

#### 花が自慢のまち部門

学校花壇の部／地域花壇の部／オープンガーデンの部

※前身となるコンクールはH11から実施、現在の部門分けはH26から

⇒広い世代への普及は端緒についたところ。

### ○芝生文化の創造

- ・芝生文化創造プロジェクトのための提言（H24.1）
- ・静岡県芝草研究所創設（H24.10）
- ・研究成果として「誰にでもできるバミューダグラスによる園庭・校庭の芝生化マニュアル」を発行（H29.3）
- ・グリーンバンク事業で園庭等の芝生化事業、芝生管理活動支援事業、芝生管理講座等を実施。（H25～）
- ・県内の芝生化実施校数（公立のみ）

	小学校	中学校	高校	特別支援
天然芝実施校数/ グラウンド設置校数	21/505	6/255	5/94	3/24

H28  
学校基本  
調査より

⇒芝生研究の成果が県民に周知されておらず、芝生は手間が掛かるものだとの認識を持つ人が多く、芝生の普及が進まない。

スポーツ、生活、教育の場において、芝生のある豊かな暮らしを目指す機運が醸成されていない。

## 論点2

### 花と緑による地域景観の質向上 (花と緑のまちづくり)

- 住む人が地域に愛着を持てる美しいまち並みづくりが期待される。
- ラグビーワールドカップ2019（エコパスタジアム）、東京2020オリンピック（自転車競技：伊豆ベロドローム）が静岡県内で開催される。会場周辺や会場への交通のアクセス上の景観を多くの人が目にするようになる。

#### ○おもてなし空間の緑化の必要性

おもてなし空間とは・・・

- ・訪れる人に地域を印象付ける観光地
- ・観光客や地域の人との交流拠点となる駅前や道の駅
- ・観光地や地域のシンボルである場所に続いていく沿道
- ・地域の人が集う公園や（文化施設等の）公共施設
- ・学校などの教育施設周辺地区 など

### 多くの人々が目にする地域のシンボルとなる空間

⇒世界各地からの来訪者を花と緑でおもてなしする機運を醸成する。

- ・住民や行政だけでなく民間事業者も参画し、花と緑による安らぎのある街並みづくりを進めていく。



# 論点3

## 社会総がかりの緑化活動(みんなで取り組む)

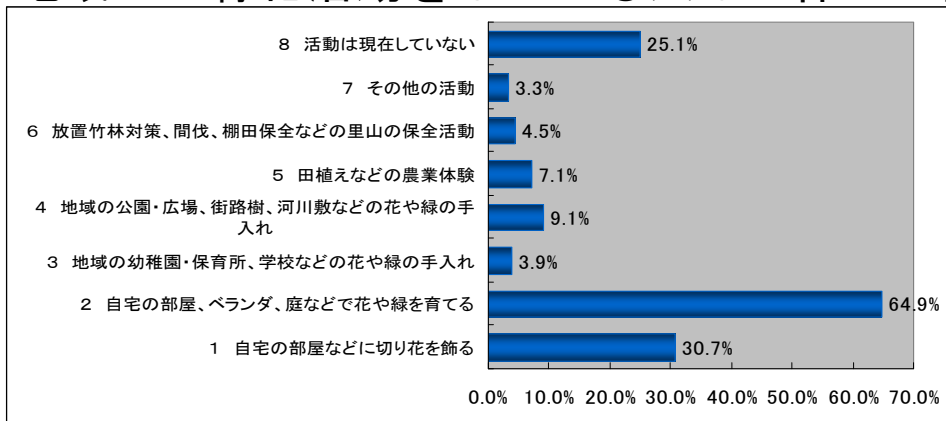
### ●高齢化により緑化ボランティア団体が減少

#### ・グリーンバンク

#### 定期配布事業及び緑化グループ支援事業支援団体数

年度	23	24	25	26	27	28
定期配布団体	4,761	4,987	4,843	4,835	4,761	4,621
グループ支援団体	152	152	167	161	151	143

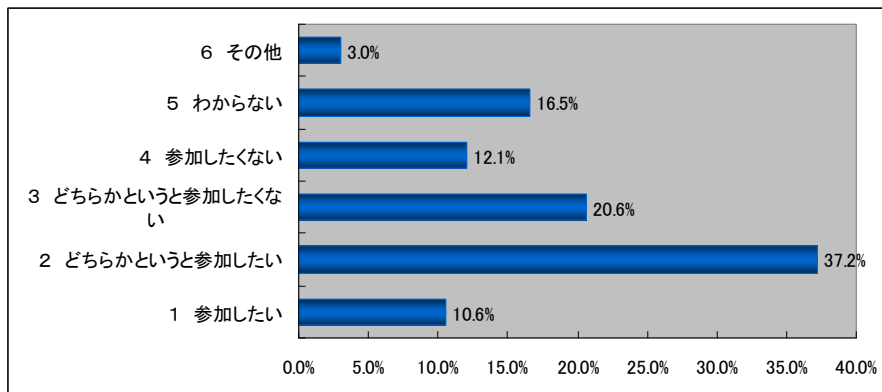
### ○地域での緑化活動をしている人は全体の1割程度



インターネットモニターアンケート(H29.6)より

計画の策定にあたり、現状の課題と緑化施策の方向性を探るためアンケート調査を実施。

### ○身近な花や緑づくり活動へ参加したい人は全体の半数程度



⇒幅広い年齢層への拡大や民間活力の投入など新たな担い手層へのアプローチやしくみが不十分。

- ・新たな担い手の確保には、緑化活動に参加しやすい維持管理の効率性や省力化が求められる。
- ・植物への十分な知識に加え、景観形成の視点から空間全体をコーディネートできる幅広い知識を持った地域リーダー人材の育成が必要。
- ・民間事業者の理解や参加が不足しているとともに、地域と事業者が協働して緑化に取り組むコーディネート機能が不足。